



泌尿器科 部長

# 安田 雅春

前立腺がんは当院においても患者数が多い疾患ですが、早期発見により完全に治ることも十分に期待できます。50歳以上の方はぜひPSA検査を受け、がんを見逃すことがないよう希望しています。（高知大学より週2回の診察応援に来ていただいておりますので前立腺がんに関しては高知大学で最先端の治療を受けることが可能です。）



手術支援ロボット (da Vinci: ダヴィンチ) P09 | ひだまりぶらす | vol.6

## 前立腺がん

前立腺がんは男性に特有の前立腺の外腺より発生する腺がんです。高齢化や食生活の欧米化にともない日本人の前立腺がんは年々増えてきており、2020年には肺がんに次いで男性がんの罹患数第2位になると予想されています。2009年には約1万人が前立腺がんによって亡くなっており2025年には1万5千人が前立腺がんによって死亡すると予測されています。

前立腺がんは尿道より離れた部位(図2)より発生するため症状が出にくく発見が遅れることがあります。このため早期に発見するためにはPSA検査が非常に有効で少量の採血をするだけで検査が可能です。安芸市でも以前より高知大学の協力により前立腺がん検診が行われてきており、前立腺がんの早期発見に効果を発揮してきました。一般にPSAの値が高くなるほど前立腺がんの可能性が高くなります。PSAが4~10ng/mlの人で約30%、10~20ng/mlの人で約半数に前立腺がんが発見されます。このため、PSA値が基準値を超えた場合には前立腺がんその他の疾患(前立腺肥大症、前立腺炎、射精後にも上昇します)を鑑別する必要があり、医療機関の受診をお勧めします。

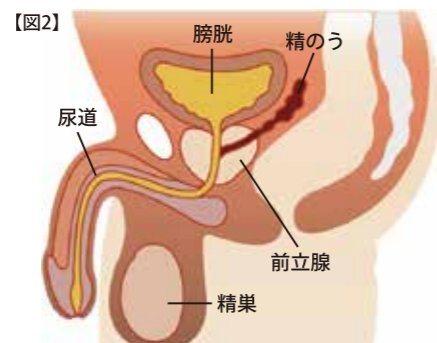
当院ではPSA検査、直腸診、超音波検査などを行い、これらを総合的に判断したうえで精密検査(前立腺生検)を行うかどうか決めていきます。

前立腺生検は肛門から超音波器具を挿入し前立腺を観察しながら細い針で6~12か所の前立腺組織を採取します。主な合併症として針を刺すときの痛みや血尿、肛門からの出血があります。

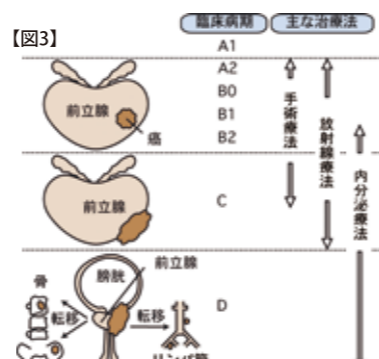
### ■前立腺がんの治療(図3)

前立腺生検で前立腺がんと診断されたら治療方法の決定のための評価を行います。これには腹部CT、骨盤MRI、骨シンチグラフィがありそれぞれリンパ節転移や骨への転移を調べます。また治療方法は年齢、がんの広がり、転移の有無や全身状態などを考慮して決定されます。年齢が75歳未満で、がんが前立腺にのみ存在する(骨盤内リンパ節や骨などに転移がない)場合には手術療法により根治が期待できます。以前は下腹部を切開して前立腺を摘出する手術が行われていましたが、最近では体の負担が少ない腹腔鏡手術が多く行われるようになっていきます。平成24年4月よりロボット(図1)を用いた手術が保険適応となり高知大学でも昨年秋よりこの手術を行っています。これにより少ない出血で術後早期の離床が可能となり入院期間が短縮していますが合併症として尿失禁や勃起不全があります。また手術と同じように放射線治療も有効で、長期の生存も期待できます。放射線治療には外照射と組織内照射治療があり、高知大学で個々の状況に応じた治療を行っています。

がんがすでに転移している場合や手術、放射線治療ができない場合でもあまり悲観する必要はありません。薬物で男性ホルモンを抑制する内分泌治療が非常に有効でかなりの治療効果が期待できます。しかしながら約5年前後で内分泌治療の効果がなくなる場合が多く、このような内分泌治療が効かなくなった場合にはドセタキセルといった抗がん剤を用いた化学療法も行っています。



前立腺の位置



病気分類と治療法

## 膵がん

膵がんは膵臓から発生した悪性腫瘍で早期発見が非常に困難な上に進行が早く、きわめて予後が悪いがんです。年間死亡数は約2万数千人でありがんの死因別では男女とも5位で年々増加傾向にあり、男女とも50才以上から増加し危険因子として喫煙者は2.5倍の頻度で膵がんになりやすく、糖尿病患者は2倍の頻度で膵がんになりやすいといわれています。

### ■膵がんの症状

膵がんにはあまり特徴的な症状はなく、病院を訪れる理由としては最も多いのは上腹部痛や胃のあたりの不快感、なんとなくお腹の調子が良くないなどという一般的な消化器症状です。この他に体重減少などもみられますが、比較的特徴的なものとして膵頭部にがんができて胆管が詰まった時に黄疸が出現します。

### ■膵がんの診断

膵がんの可能性があると疑った場合に腹部エコー、造影CT検査を行い血液検査で腫瘍マーカーを(CA19-9、CEA、DU-PAN-2)を調べます。さらに超音波内視鏡検査にて細胞診・組織診を行うことも可能で診断技術は進歩しています。

### ■膵がんの治療・予後

膵がんと診断されたら臨床病期を診断し膵がんの進行度を判断しそのステージ(ステージI~IVb)に応じた治療を選択することとなります。

進行度は治療の観点から切除可能か?局所進行か?遠隔転移ありか?の3段階に分けて判断します。治療法としては、手術、全身化学療法、放射線療法を単独または組み合わせることになりますが、外科的切除が長期生存には重要です。局所進行がんや遠隔転移等の場合には治療が困難なことも多く、早期発見が大事です。



消化器内科 医長

# 和田 邦彦



Un docteur, s' il vous plait faites-moi savoir!

このコーナーでは、各診療科の医師が気になる疾患の症状・治療・予防法などについて解説いたします。

